自衛隊の現場

あまり知られていないお仕事

横須賀警備隊陸警隊

私は、海上自衛隊横須賀警備隊陸警隊において、陸警班長として勤務しています。

海上自衛隊の陸警隊は全国5カ所（横須賀、呉、佐世保、舞鶴、大湊）に置かれ、所在する地区の施設警備を主な任務としています

50口径3インチ単装砲

が、私が勤務する横須賀陸警隊のみが、他地区にはない「礼砲発射（観音崎礼砲砲台の管理および運用）」を実施しています。

この度「あまり知られていないお仕事」ということで寄稿の機会をいただきましたので、礼砲発射について紹介させていただきます。

礼砲発射とは、大砲を使用した軍隊などにおける礼式の一つであり、互いに11発～21発の空包を発射し合い敬意を表す国際儀礼です。

礼砲発射に使用する観音崎礼砲砲台は、1962年（昭和37年）に設置されて以降、東京湾の玄関口にあたる観音崎において数多くの友好国の軍艦を出迎えてきました。現在使用している砲台（大砲）は「50口径3インチ単装砲（MK22Mod4）」3門で、いずれも42年（昭和17年）頃に製造されたものであり、約80年の長きにわたり現役で活躍しています。

礼砲発射訓練の様子

実際の礼式時は、所定の発射数を5秒間隔で連続発射します。一見簡単そうに聞こえますが、これが製造80年の砲台となればなかなか大変です。特に、発火させるための電気回路や機構のメンテナンスは細心の注意が必要となり、発射が終わるまで気が抜けません。また、発射するための薬包の装填、抜弾、運弾などの操作は全て手動であり、熟練の技とチームワークが必要不可欠です。このような大変な任務ではありますが、横須賀陸警隊員は通常業務の傍ら、観音崎礼砲砲台の管理および運用を観音崎にて頑張っています。

ごく最近では8月29日、ペルー海軍の練習船「ウニオン」と礼砲交換を行いました。終了後は、全弾発射できたことに安堵するとともに、やりがいのある仕事であることを再認識しました。

私は、日本を代表して友好国を海の入口で出迎えることができるこの仕事に誇りをもっています。

今後も礼砲発射という国際儀礼が、観音崎の地で滞りなく厳粛に執り行われるよう、横須賀陸警隊一丸となって全力で取り組んでいく所存です。

（陸警班長　2等海尉　村上　大樹）

礼砲交換

信太山（大阪府）

浜田靖一防衛大臣が初度視察 第一線部隊の現状を把握される

信太山駐屯地（司令・三浦淑1等陸佐）は8月21日、浜田靖一防衛大臣による部隊視察を受けました。

視察される浜田防衛大臣（当時）

駐屯地開設以来初めてとなる防衛大臣の来隊となった本視察において、浜田防衛大臣は、駐屯地および主力部隊である第37普通科連隊の取り組みや地域との連携などに関して、駐屯地司令から概要報告を受けた後、信太山駐屯地、演習場の各施設および新隊員の訓練を視察されました。

信太山駐屯地の歴史は古く、大正8年、日清・日露戦争で勇名を馳せた旧陸軍野砲兵第4聯隊が大阪法円坂から移駐されたことに端を発し、当時に建てられた建築物の一部が現在も倉庫などとして使用されています。これら施設の老朽化が進んでいることを確認した浜田防衛大臣は、駐屯地司令に対し、隊員の処遇改善や運用性向上の観点から、施設の建て替えなどが必要と思われるものについては「適切に要望するように」と指示されました。

終始和やかな雰囲気で行われた本視察は、浜田防衛大臣に第一線部隊の現状を把握していただくとともに、受察した信太山駐屯地隊員の士気高揚につながる極めて有意義な機会となりました。

滝川（北海道）

創立記念市中パレードを実施 約2000人の観客から大きな声援

滝川駐屯地（司令・松井貴仁1等陸佐）は7月23日、滝川市ベルロードにおいて、陸上自衛隊滝川駐屯地創立記念行事市中パレード協賛会主催のもと、滝川駐屯地創立記念市中パレードを実施しました。

16式機動戦闘車の市中パレード

市中パレードは開催に先立ち、しぶき太鼓の太鼓演奏、拳法訓練隊による格闘展示、第11音楽隊による音楽演奏を行いました。

市中パレードは、諸職種協同の機械化部隊である第10即応機動連隊を主力として、滝川駐屯地業務隊、第315会計隊の他、第11後方支援隊即応機動直接支援中隊、北部方面対舟艇対戦車隊（倶知安）、第2地対艦ミサイル連隊（美唄）、第12施設群（岩見沢）、札幌地方協力本部滝川地域事務所の参加を得て、道内最大の迫力ある行進を行いました。

車両には、自衛官募集および駐屯地行事などの案内を掲示し、陸海空の自衛官で構成された部隊、事務官や技官を含めた滝川駐屯地業務隊の発揮とした行進と笑顔に、道内外から訪れた約2000人の観客から、日の丸の旗を手に大きな声援を受けました。

普通寺（香川県）

陸自ワーキングフェスタ四国 約130人が参加し理解を深める

第14旅団（旅団長・大場剛陸将補）は8月5日、普通寺駐屯地において、令和5年度募集広報の日「陸自ワーキングフェスタ四国」を実施しました。

本行事は、普段は知ることができない陸上自衛隊の職種部隊の隊員の生の声を知ってもらい、入隊志願者の獲得に資することを目的に行われ、今年度は四国4県から参加した募集対象者およびその保護者約130人に対し、職種紹介・装備品展示、体験喫食および懇談などを行いました。

オートバイ操縦パフォーマンス

職種紹介・装備品展示では、それぞれの職種について極めて高所からロープを使用した降下訓練および格闘による近接戦闘、機甲科職種はオートバイの操縦パフォーマンスを行い、迫力ある隊員の姿に「すごい迫力でかっこよかった！」「自分も、将来やってみたい」など目を輝かせていました。

懇談においては、保護者も参加し、隊員に直接自衛隊での日々の生活や訓練内容などを質問して理解を深めていました。

また、体験喫食では、メインメニューとして「野菜たっぷりカルビ焼肉丼」デザートには「中部方面隊デザート甲子園」で優秀作品に選ばれた「抹茶プリン」を提供し、普通寺駐屯地の食事を味わってもらいました。

参加者は炎天下の中、給水採流による熱中症対策を万全にしつつ、説明に対し熱心に耳を傾け、自衛隊に対する理解を深めた1日となりました。

北千歳（北海道）

装軌車など61両が長距離機動訓練 PFI船舶を使用した機動展開

第7師団（師団長・遠藤充陸将）は8月21日から23日までの間、公道自走および海上機動による長距離機動訓練を実施しました。

本訓練は、機動展開能力を含む運用の実効性を向上させることを目的として、第71戦車連隊（連隊長・前田1佐）を基幹とする訓練部隊を編成し、装軌車16両、装輪車45両が参加しました。

訓練部隊の主力は、海上機動の出港地となる苫小牧港、室蘭港へ公道自走およびトレーラーで輸送しました。各港においては、港湾・船舶関係者および中央輸送隊の誘導により整斉とPFI（民間資金等活用）船舶「ナッチャンWorld」に乗船、海上機動を行いました。夜霧の立ち込める釧路港に到着した訓練部隊は安全確実に下船するとともに、公道自走へ速やかに移行し、釧路市内を機動、釧路駐屯地までの長距離機動任務を完遂しました。

声援を受けて公道を自走

東千歳駐屯地出発時においては、家族会および隊友会の各千歳支部など、関係協力団体の方々からあたたかい激励をいただくとともに、各公道自走の経路沿いにおいては、地域の皆さんから多くの応援をいただき、隊員の士気は大きく高揚しました。

市ヶ谷（東京都）

「職業体験EXPO2023」に出展 陸海空3幕共同で体験型の職業紹介

7月29日、陸・海・空の幕僚監部は、住友不動産ベルサール渋谷ファーストで開催された「職業体験EXPO2023」に、3幕共同で防衛省・自衛隊ブースを出展しました。

本イベントは「子どもと社会の出会い」をテーマに、会社の取り組みや企業活動を学べる場を提供することで、社会を知ると同時に将来の目標や職業感を育む機会をつくることを目的に開催され、18の企業・団体が、ブースに訪れた小学生とその保護者に対して、体験型の職業紹介を行いました。

陸自キャラクターと写真撮影

防衛省・自衛隊ブースでは、陸上自衛隊の背嚢体験、海上自衛隊の南極の水に触れる体験、航空自衛隊のF-4EJ改の操縦桿、計器類の操作の体験などが行われ、普段直接触れる機会の少ない自衛隊を体験できたことにより、多くの小学生と保護者で賑わいました。海上自衛隊ブースでは、装備品の着用体験も行われ、見慣れない海上自衛隊の救命胴衣に興味を示し、着用した状態で陸上自衛隊のキャラクター「タクマくん」と写真撮影する小学生の姿も見られました。

防衛省自衛隊ブースについて、参加した小学生からは「自衛隊かっこいい！」「南極の水に触れたのが印象に残った。北極の水はどうなんだろうと思った」「災害のことやそれに対応する自衛隊のことなどもよく分かった」といった感想が寄せられていました。

防衛省自衛隊ブースで実際に自衛隊に触れた経験は、子供たちに記憶に残ったのではないでしょうか。

体験したことがきっかけに将来、自衛隊や安全保障に興味をもってもらえればありがたいです。

佐世保（長崎県）

海自佐世保教育隊で修業式 348人が意気揚々と行進

佐世保教育隊（司令・吉田太郎1等海佐）は8月24日、第19期一般海曹候補生課程、第381期練習員課程および第69期練習員課程（女性）の修業式を佐世保地方総監（西成人海将）（当時）臨席の下、厳粛に挙行しました。

佐世保教育隊司令は「今後、部隊において国防の任務を遂行するに当たり、服務の宣誓の意味するところをしっかりと心に刻みながら、真に戦うために必要な心・技・体の地道な鍛錬を日々怠ることなく続けていき、この佐世保教育隊で学んだことを糧に真正面から部隊実習に取り組んでもらいたい」と式辞を述べ、佐世保地方総監は「わが国を取り巻く安全保障環境は益々厳しさと複雑さを増しており、このような情勢下、諸官らは『わが国の領域と周辺海域の防衛』および『海上交通の安全確保』の一翼を担うこととなる。諸官らには、第1に海上自衛官として極めて重要な一翼を担うことに誇りを持ち、自己の職責を果たしてもらいたい。第2に警戒監視等の任務や訓練などの『平素における戦い』に勝ち抜くという強い使命感および覚悟をもって国民の安心安全を守ってもらいたい」と訓示しました。

意気揚々と行進

修業生348人は、約4カ月半の間、海上自衛官としての基礎的な知識、技能を修得するため、さまざまな教育訓練を受け、心・技・体の鍛錬に努めました。入隊当初は、団体生活に馴染めない者や訓練についていけない者もいましたが、同期生が相互に励まし合って乗り越え、晴れて修業の日を迎えることができました。

修業生は、来賓、ご家族および職員に見送られ、意気揚々と行進し、全国各地の勤務地に向けて旅立ちました。

今回初の訓練参加となった第71戦車連隊1中隊10式戦車操縦手の今村士長は「車長の指示に従い、一般車両の走行に注意しながら操縦することができました。

今回の訓練により、操縦手として一回り成長できたと思います」と感想を述べました。

本訓練において第7師団は、関係部内外機関と緊密に連携するとともに、整斉円滑、安全確実に長距離機動を実施して、公道およびPFI船舶を使用した機動展開の実効性および長距離機動に関する部隊、隊員の練度を向上させることができました。第7師団は引き続き、陸上自衛隊唯一の機甲師団として日本国内のあらゆる地域に速やかに機動展開し、その強力な機動打撃力を発揮できるよう、日々の訓練にまい進していきます。

倶知安（北海道）

第61回くっちゃんじゃが祭りに参加 2日間で約3万人の来場者で大盛況

倶知安駐屯地（司令・山口2等陸佐）は、8月5日と6日の両日、倶知安町内で開催された「第61回くっちゃんじゃが祭り」（じゃが祭り）に参加しました。

じゃが祭りは倶知安町最大のイベントであり、コロナ禍による影響により近年は規模を縮小しての開催が続いていました。今年は4年ぶりに通常開催が行われ、駐屯地の参加も4年振りとなりました。

祭り終盤を盛り上げるじゃが千人踊り

駐屯地からは5日の「阿波踊り」および「じゃがねぶた」、6日の「じゃが千人踊り」に、両日合わせて約200人の隊員が参加し、大勢の来場者で賑わう中、自衛官らしい威勢の良い掛け声と力強いパフォーマンス、楽しげな踊りを披露し、地域住民と一体となって会場を大いに盛り上げました。

「阿波踊り」「じゃが千人踊り」には、普任間もない山口司令も参加。駐屯地司令が掲げる「和」「地域とともに躍動」を自ら実践し、終始にこやかな笑顔で隊員を先導しました。

じゃがまつりには2日間で約3万人の来場者が訪れ、祭りは大盛況のうちに幕を閉じました。

駐屯地は引き続き地域とのつながりを強化し、地域とともに歩み続ける駐屯地を継続いたします。

百里（茨城県）

航空機炎上等対処訓練を実施 迅速的確な消火訓練と人員救助訓練

第7航空団基地業務群施設隊消防小隊は6月28日、航空機炎上等対処訓練を行いました。

隊員たちは、燃え盛る炎をものともせず果敢に真っ向から立ち向かい、本番さながらの緊張感を持っての消火訓練とダミー人形を使用した人命救助訓練を行いました。

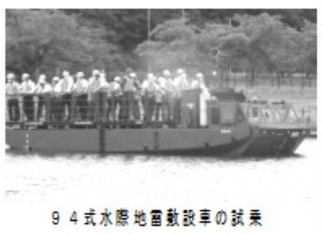
この訓練により指揮官の的確な指示の下、迅速的確に消火および人員の救助に当たり、緊急事態対処能力の維持および向上を図りました。

本番さながらの消火訓練

船岡（宮城県）

第11回災害対処連絡会を開催 さらなる信頼される駐屯地を目指して

第2施設団（団長・黒羽明陸将補）は7月4日、船岡駐屯地において、第11回災害対処連絡会を開催しました。


94式水際地雷敷設車の試乗

本連絡会は、宮城県仙南地区における自治体、関係機関などの皆さまと自衛隊との関係の強化充実を目的として、年に1度、陸上自衛隊第2施設団が船岡駐屯地において開催しているものです。

東日本大震災の翌年となる平成24年度から始まり、今年で11回目を迎えました。国交省、環境省、県、市町村、警察、消防、隊友会、家族会など多くの関係者が一堂に会することができ、大変有意義な会となりました。

今年度は、自衛隊、関係機関からの情報発信および装備品展示を行いました。さらに新たに自治体などに加え、警察・消防の方からの情報発信や自治体との懇談時間を設定するとともに、相互理解の観点からも国土交通省東北地方整備局緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による情報発信および装備品展示のご協力を得て、より一層充実した連絡会を開催することができました。

近年、台風、豪雨などによる災害が頻発、激甚化しているため、ニュースや天気予報、災害情報の提供もかなり変化しています。

このような中で、自衛隊は、国民の生命と財産を守るべく、従前の現地における「待ち受け型」の対応ではなく、「提案型」の支援を継続的に実施しなければなりません。

TEC-FORCEをバックに記念撮影

また、災害初期段階においては、自治体からの要請やニーズを積極的に収集すべく、空振りを厭わず迅速な初動活動が必要と認識しています。

第2施設団（船岡駐屯地）は、風水害や台風シーズンの到来を前に関係者との顔の見える関係の構築および能力の相互理解に努め、隊区内自治体・関係部外機関などとの連携強化を図り、さらなる災害対処態勢の強化を推進していきます。

千僧（兵庫県）

師団募集広報の日を開催 自衛隊への理解促進を図ることを目的

第3師団（師団長・佐藤真陸将）は8月24日、千僧駐屯地において「令和5年度師団募集広報の日」を実施しました。

今年で4回目となるこのイベントは、近畿2府4県に所在する入隊を考えている方、特に、自衛隊に興味のある高校生から33歳未満の方を対象に、自衛隊への理解促進を図ることを目的として、各自衛隊地方協力本部と連携して開催しました。

隊員食堂における体験喫食

各自衛隊地方協力本部を通じて申し込みのあった募集対象者およびその保護者などの参加者に対し、陸上自衛隊の15個職種に加えて海上自衛隊および航空自衛隊が一堂に会し、それぞれの魅力を説明しました。

各種体験コーナーや隊員食堂での体験喫食など、年代の近い隊員との懇談を通じて、自衛隊に対する理解を深めていただきました。

イベントに参加した募集対象者からは「さまざまな職種を知ることができて、自衛隊に対してさらに興味がわきました」「女性隊員が活躍している姿を見て、私も自衛官になりたいと思いました」「食堂のご飯がとても美味しかったです」などの感想が聞かれました。

数字　頭の体操⑦

問題

連続する3つの整数を掛け合わせた時、これを6で割ると余りはいくつになりますか？

（解答は、7面に）
（出題・解説：antaka）
＊漢字　頭の体操はお休みします。

地獄谷温泉後楽館は
自衛官を応援しています